

令和 8 年度 和歌山大学大学院教育学研究科専門職学位課程（教職大学院）

第一次入学試験問題・解答用紙 [小論文] (3枚の内の1)

受験番号

コース：特別支援教育コース

※

(問題)

以下の文章は、文部科学省の「交流及び共同学習ガイド」より一部抜粋したものである。これをふまえて以下の問いに答えなさい。

我が国は、障害の有無にかかわらず、誰もが相互に人格と個性を尊重し合える共生社会の実現を目指しています。幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校（以下「小・中学校等」という。）及び特別支援学校等が行う、障害のある子供と障害のない子供、あるいは地域の障害のある人とが触れ合い、共に活動する交流及び共同学習は、障害のある子供にとっても、障害のない子供にとっても、経験を深め、社会性を養い、豊かな人間性を育むとともに、お互いを尊重し合う大切さを学ぶ機会となるなど、大きな意義を有するものです。

文部科学省「交流及び共同学習ガイド」(2019年3月)より一部抜粋

(問1)

「交流及び共同学習」の概要と意義について説明しなさい。

(解答)

令和 8 年度 和歌山大学大学院教育学研究科専門職学位課程（教職大学院）

第一次入学試験問題・解答用紙 [小論文] (3枚の中の2)

受験番号	
------	--

コース：特別支援教育コース

---

※	
---	--

(問2)

特別支援学級又は特別支援学校で行われる「交流及び共同学習」の具体的な活動例を1つ以上想定し、活動のねらい、活動計画の立て方、支援の工夫について論述しなさい。

(解答)

(スペースが足りない場合は、次のページを使用しなさい。)

第一次入学試験問題 [小論文] 解答例・出題の意図

コ ー ス：特別支援教育コース

---

【出題の意図】

交流及び共同学習は、「幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校（以下「小・中学校等」という。）及び特別支援学校等が行う、障害のある子供と障害のない子供、あるいは地域の障害のある人とが触れ合い、共に活動する」、「障害のある子供にとっても、障害のない子供にとっても、経験を深め、社会性を養い、豊かな人間性を育むとともに、お互いを尊重し合う大切さを学ぶ機会」である。また、交流及び共同学習には、「相互の触れ合いを通じて豊かな人間性を育むことを目的とする交流の側面と、教科等のねらいの達成を目的とする共同学習の側面があり、この二つの側面を分かちがたいものとして捉え、推進していく必要」がある。

「交流及び共同学習の内容としては、例えば、特別支援学校と小・中学校等が、学校行事やクラブ活動、部活動、自然体験活動、ボランティア活動などを合同で行ったり、文通や作品の交換、コンピュータや情報通信ネットワークを活用してコミュニケーションを深めたりすることなどが考えられる。「これらの活動により、各学校全体の教育活動が活性化されるとともに、子供たちが幅広い体験を得、視野を広げることで、豊かな人間形成に資することが期待される」。

この問題では、まず、交流及び共同学習について、上記の要点を説明することを求めている。次に、特別支援学級又は特別支援学校で行われる交流及び共同学習の具体的な活動例を1つ以上想定して、活動のねらい、教育課程上の位置づけ、支援の工夫について、以下の要点と関連付けて考察を行うことが期待される。

- 「充実した活動を行うためには、事前に、子供たちや活動に関わる関係者に対し、担当する教職員が活動のねらいを明確にし、理解を深めておくことが大切」である。「ねらいの設定に当たっては、この活動を通して子供のどのような資質・能力を育成するのかを検討することが大切」である。
- 「交流及び共同学習を計画的・継続的に行うためには、年間指導計画の中に位置付けておくことが大切」である。
- 「交流及び共同学習の実施に当たっては、学校の教職員、子供たち、保護者など当該活動に関わる関係者が、取組の意義やねらい等について、十分に理解し、共通理解をもって進めることが大切」である。
- 「教職員によって交流及び共同学習に関する理解や取組状況が異なることから、個々の教職員の取組に任せるのではなく、校長のリーダーシップの下、学校全体で組織的に継続して取り組むことが大切」である。
- 「交流及び共同学習は、各教科、道徳科、総合的な学習の時間又は特別活動等のそれぞれの授業において行うことができ」る。「実施する学校において、教育課程上の位置付けやねらいなどを明確にし、適切な評価を行うことが必要」である。「具体的な指導の形態等については、在籍校の教育活動の一環であることを考慮し、相手校と協議の上、個々の実態に即して適切に実施」する。
- 「交流及び共同学習を実施した後、子供が活動してみてどう感じたか、今後どのような活動をしていきたいかなどについて、振り返ってみたり、周囲の人に伝えたりすることで、活動のねらいに基づいて子供たちの理解を深めるとともに、交流及び共同学習に対する関心を一層高めるようにすることが大切」である。

※ 「」内は、文部科学省「交流及び共同学習ガイド」（2019年3月改訂）より引用